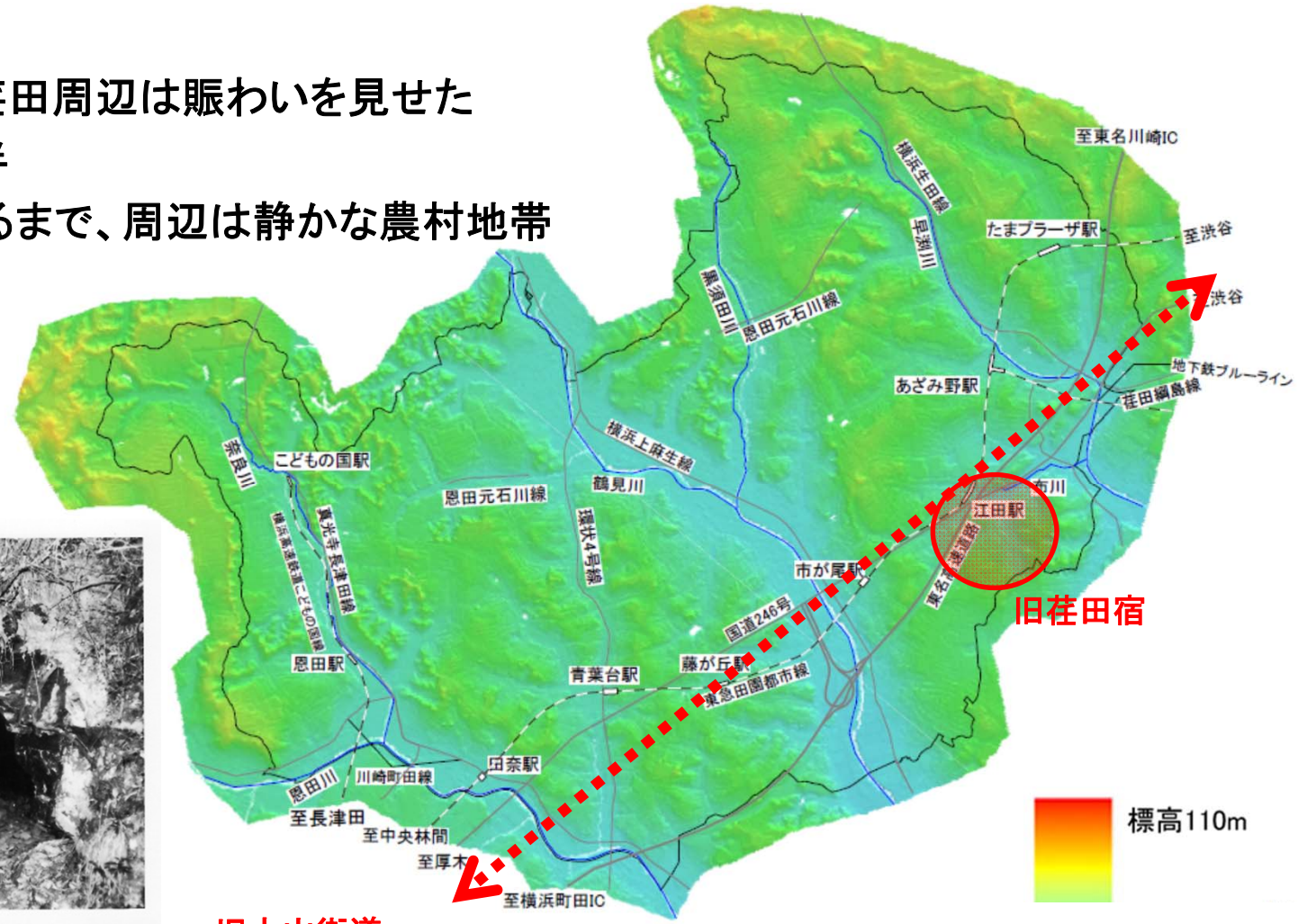


青葉区のまちの成り立ち

■ まちのはじまり

- ・先土器時代～
各時代の古墳群、人々の営み
- ・江戸時代
大山街道のある荏田周辺は賑わいを見せた
- ・～昭和30年代後半
高度成長期を迎えるまで、周辺は静かな農村地帯



市ヶ尾横穴古墳
提供：山内図書館

旧大山街道

■ 田園都市線開通と宅地開発

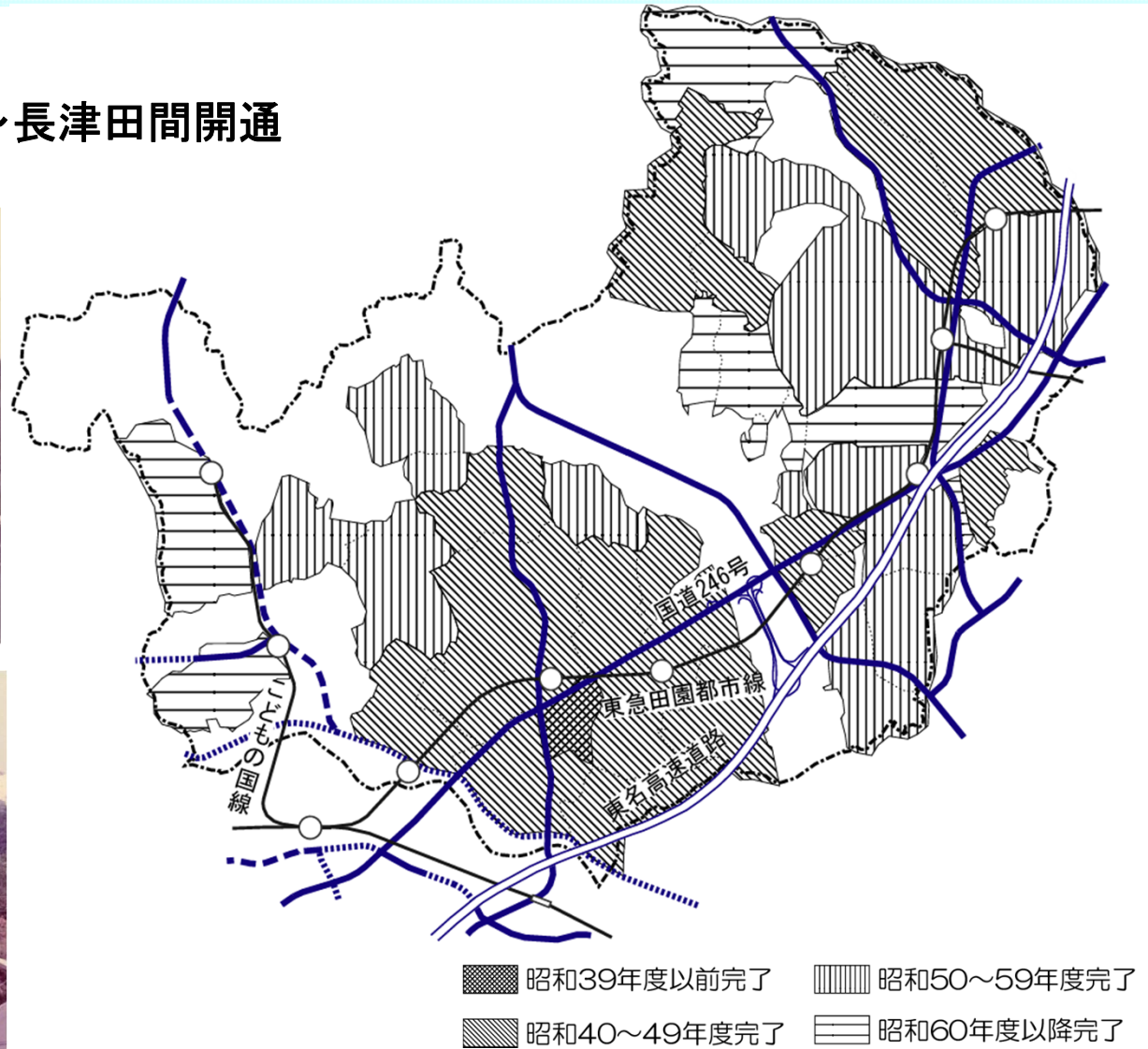
・昭和41年

東急田園都市線の溝の口～長津田間開通
を契機に宅地開発



ともに 1974年ごろの松風台

提供: 山内図書館(撮影: 柴山靖雄)

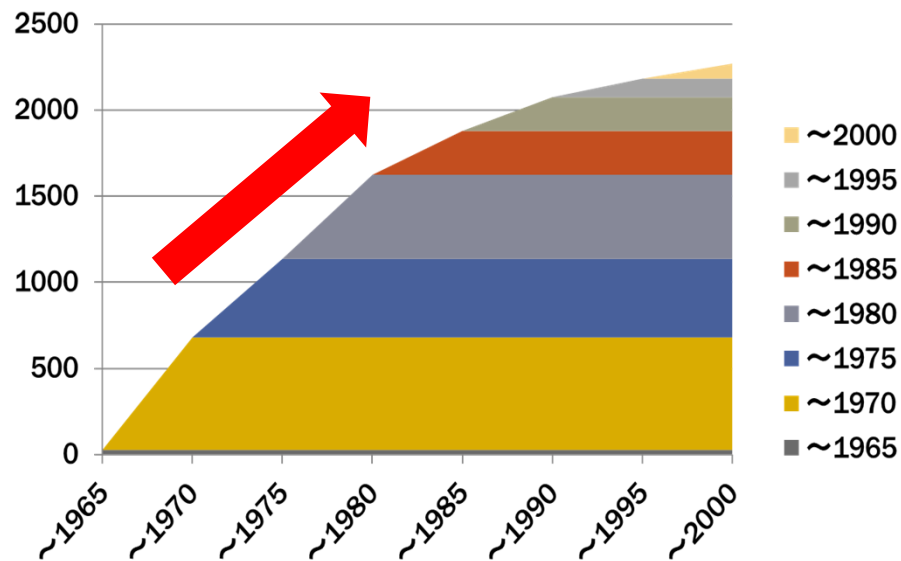


年次別土地区画整理事業の動向
(現行「青葉区まちづくり指針」より)

■ 宅地開発と人口増加

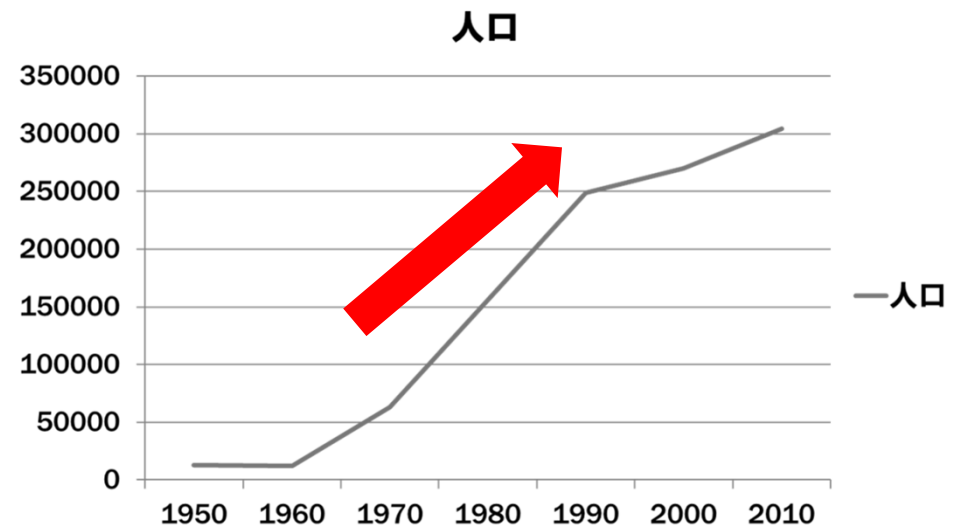
1960年代後半から1980年代にかけて
人口が一気に増加

■ 青葉区内の 土地区画整理事業面積の実績 (換地処分年度による面積)

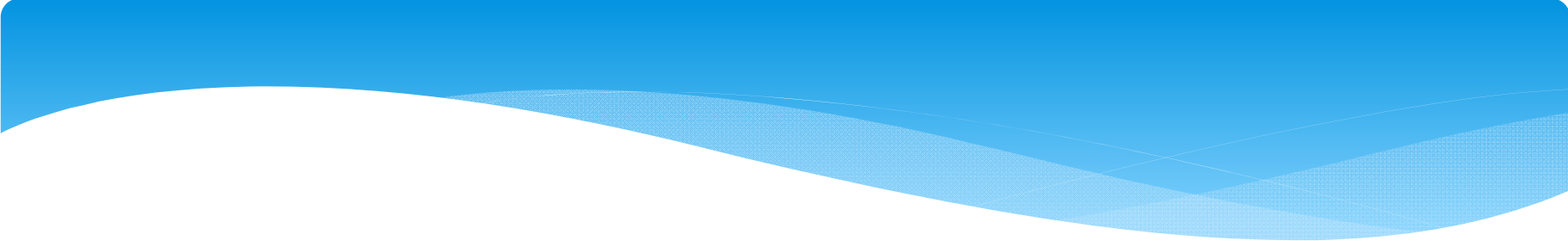


資料: 都市計画資料集(横浜市、H24.3.5現在)

■ 青葉区の人口の推移



資料: 人口ニュース(横浜市)



「青葉区まちづくり指針」

■「青葉区まちづくり指針」の策定経緯

平成11年度

現行の都市計画マスタープラン(全市プラン)策定



平成13年度

現行の都市計画マスタープラン青葉区プラン

「青葉区まちづくり指針」策定



- ・区が将来目指すべき都市像とその実現のための方針を示す
- ・2020年の青葉区の姿を想定

※全文は以下からダウンロードしてください
青葉区HP>くらしの情報>まちづくり>都市計画マスタープラン

平成25年3月

都市計画マスタープラン全市プラン「全体構想」改定



平成25年度～

「青葉区まちづくり指針」改定作業

■「青葉区まちづくり指針」もくじ

序章 青葉区まちづくり指針について

1 策定の意義／2 策定の方法／3 区民まちづくり企画との関係

第1章 青葉区のまちづくり

1 まちの成立と動向／2 まちづくりの理念／3 まちづくりの視点

第2章 青葉区の将来都市像

1 将来都市像／2 将来都市構造(将来都市構造図・まちづくりの圏域とゾーン)／3 土地利用(土地利用指針図)

第3章 テーマ別まちづくり指針

1 拠点及び住宅地づくり(拠点および住宅地づくり指針図)／2 交通ネットワークづくり(交通ネットワークづくり指針図)／3 水と緑の環境づくり(水と緑の環境づくり指針図)／4 暮らしを支えるまちづくり

第4章 実現に向けて

1 まちづくりの主体と役割／2 推進に際しての課題と考え方／3 青葉区まちづくり指針の具体化と充実

■まちづくりの理念・視点・将来像

【課題認識】

- ①高齡化、乳幼児・青少年やその親の減少
→育児環境の悪化、さらなる高齡化
- ②住環境悪化→活力の衰退
- ③開発による市街化調整区域の市街化→自然的環境の減少

まちづくりの理念

「『次世代に引き継ぐまち』づくりを目指す」

まちづくりの視点

- ①まちの活力を維持するために多様な世代が集うまちづくり
- ②水と緑の環境を維持・発展させるまちづくり
- ③魅力的な街並みを維持・発展させるまちづくり

将来都市像

個性豊かに成熟した都市「丘の横浜・青葉区」

- ・水と緑の自然的環境と魅力的な住宅地の街並みの維持・発展
- ・多様な世代が集い個性的な活動を進める活力あるコミュニティ

■ テーマ別まちづくり指針

将来都市像

個性豊かに成熟した都市「丘の横浜・青葉区」

- ・水と緑の自然的環境と魅力的な住宅地の街並みの維持・発展
- ・多様な世代が集い個性的な活動を進める活力あるコミュニティ



テーマ別まちづくり指針

- 1 拠点及び住宅地づくり
- 2 交通ネットワークづくり
- 3 水と緑の環境づくり
- 4 暮らしを支えるまちづくり

■ テーマ別まちづくり指針1 拠点及び住宅地づくり

(1) 地域の拠点づくり

① たまプラーザ駅及びあざみ野駅周辺

地区計画の導入による都市基盤施設整備、北部市民ギャラリーや北部方面フォーラムの整備、たまプラーザ～あざみ野間の連続的な賑わい創出

② 青葉台駅周辺

環状4号線渋滞や違法駐車等の改善、商店街の強化

③ 市が尾駅周辺

「区の顔」となる拠点づくり、文化・スポーツ機能の集積

④ 生活拠点としてのまちづくり＝その他の駅周辺

駅前広場や周辺道路等の都市基盤施設を整備

⑤ 地域の拠点づくりにおけるユニバーサルデザイン

駅や道路、集会施設、大規模店舗だけでなく、一般の店舗でも積極的にバリアフリー化を進める

■ テーマ別まちづくり指針1 拠点及び住宅地づくり

(2) 住宅地づくり

住宅地の種類別に整備方針と建物の最高限高度を示す。

① 計画的な開発による低層住宅地<10mまたは12m>

敷地の細分化や用途・形態の混在防止。二世帯住宅などの多様な住宅。

② 計画的な開発による中高層住宅地<15m>

③ 沿道市街地<20m>

幹線道路沿道での商業・業務と住宅の共存

④ 複合市街地<20mまたは31m>





商業・業務機能の集積。高度利用促進。都市型住宅の整備。






⑤ その他市街地<20m>








(3) きめ細かな市街地づくり

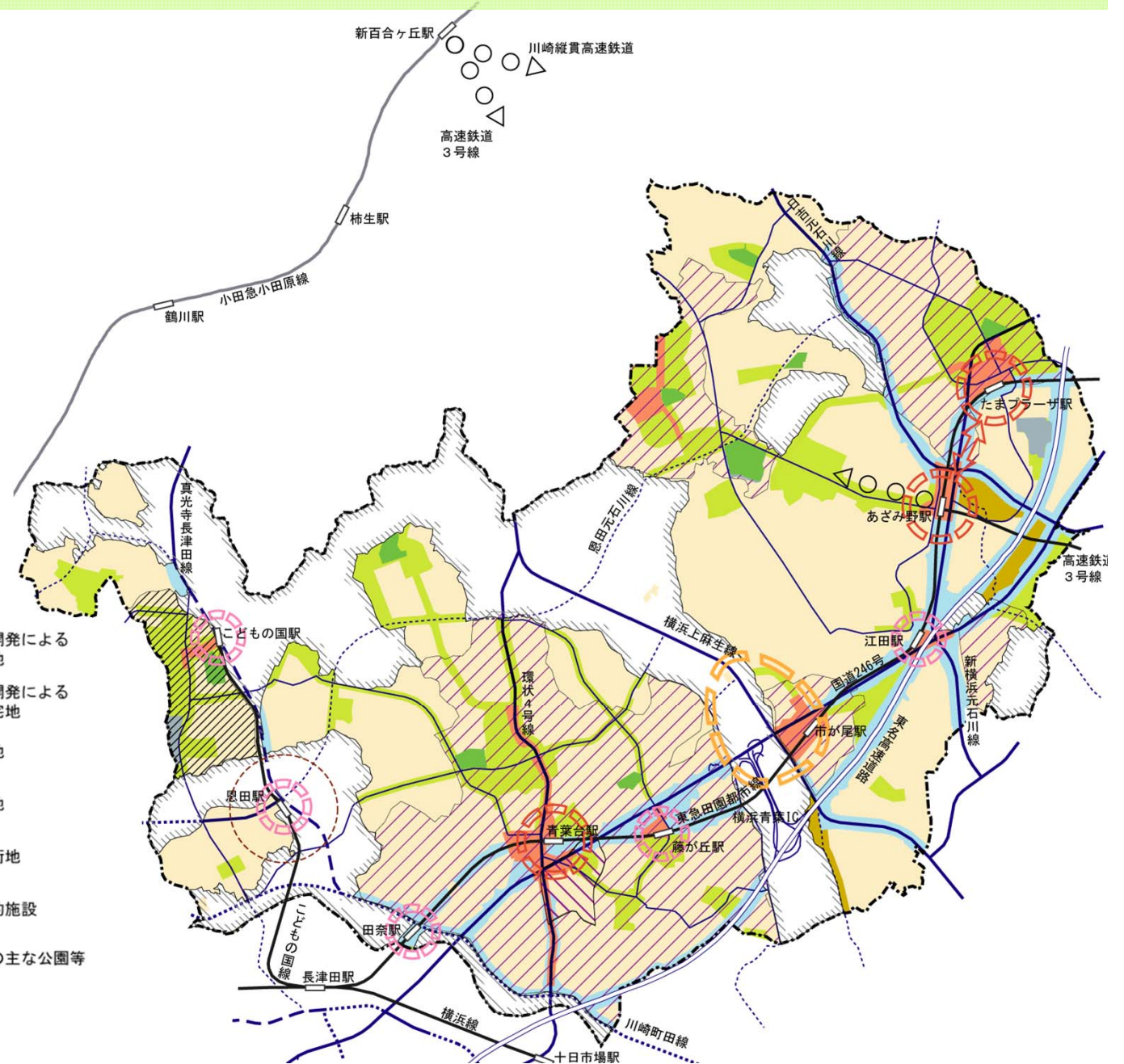
テーマ別まちづくり指針1 拠点及び住宅地づくり p.23

指針図

-  地区計画により土地利用の指針が定められている地域
-  昭和30年代までに基盤整備されてきた区域
-  昭和40年代に基盤整備されてきた区域
-  市街化を抑制すべき地域

-  地域拠点 (商業・業務・文化)
-  地域拠点の一体化
-  地域拠点 (業務・文化施設・行政サービス)
-  生活拠点
-  駅周辺のまちづくりの検討

-  計画的な開発による低層住宅地
-  計画的な開発による中高層住宅地
-  沿道市街地
-  複合市街地
-  その他市街地
-  公共公益的施設
-  市街地内の主な公園等



■ テーマ別まちづくり指針2 交通ネットワークづくり

(1) 道路網

骨格道路網、恩田元石川線、慢性的な渋滞解消、青葉台駅前広場の改良検討、緑支線

(2) 公共交通網

最寄り駅まで15分以内に到達できる地域を拡大、バス交通の改善

(3) 歩行者・自転車空間のネットワーク化

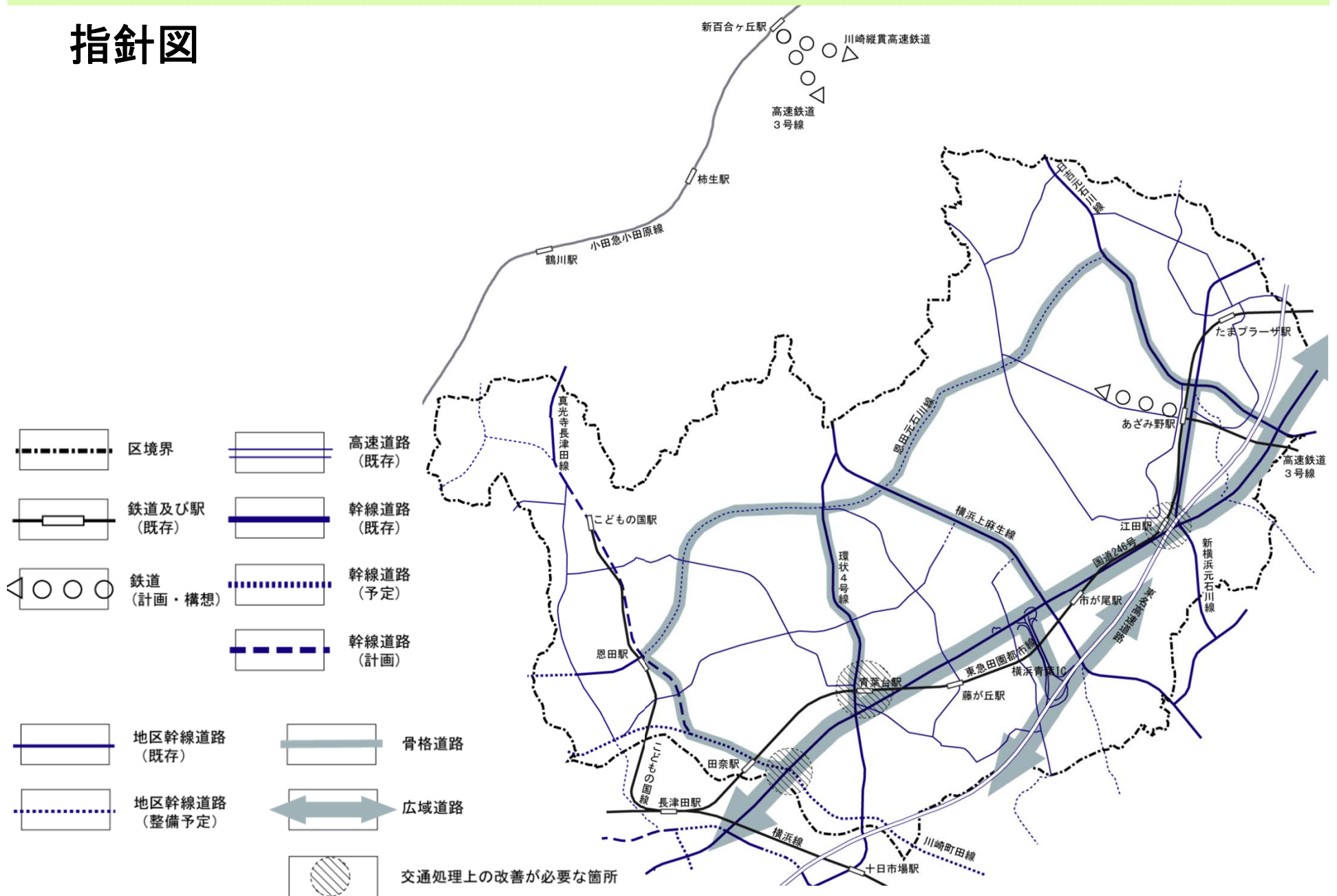
歩道の連続化、段差解消、コミュニティ道路やコミュニティゾーンの整備検討

(4) 道路・交通機関のバリアフリー化

視覚障害者誘導ブロック設置、案内板の整備、駅のバリアフリー化、ノンステップバス導入

テーマ別まちづくり指針2 交通ネットワークづくり p28

指針図



■ テーマ別まちづくり指針3 水と緑の環境づくり

(1) 緑の拠点

樹林地の保全(緑の七大拠点)、農地の保全(寺家ふるさと村)

(2) 水と緑の軸

川と周辺の田園風景を保全。多様な生物が生息する環境の保全・回復

(3) その他の市街化調整区域の樹林地、農地

(4) 市街地内の自然的環境

ふれあいの樹林、生産緑地、公園づくり、公共的空間の緑化、緑地協定

(5) 緑のネットワーク

恩田元石川線

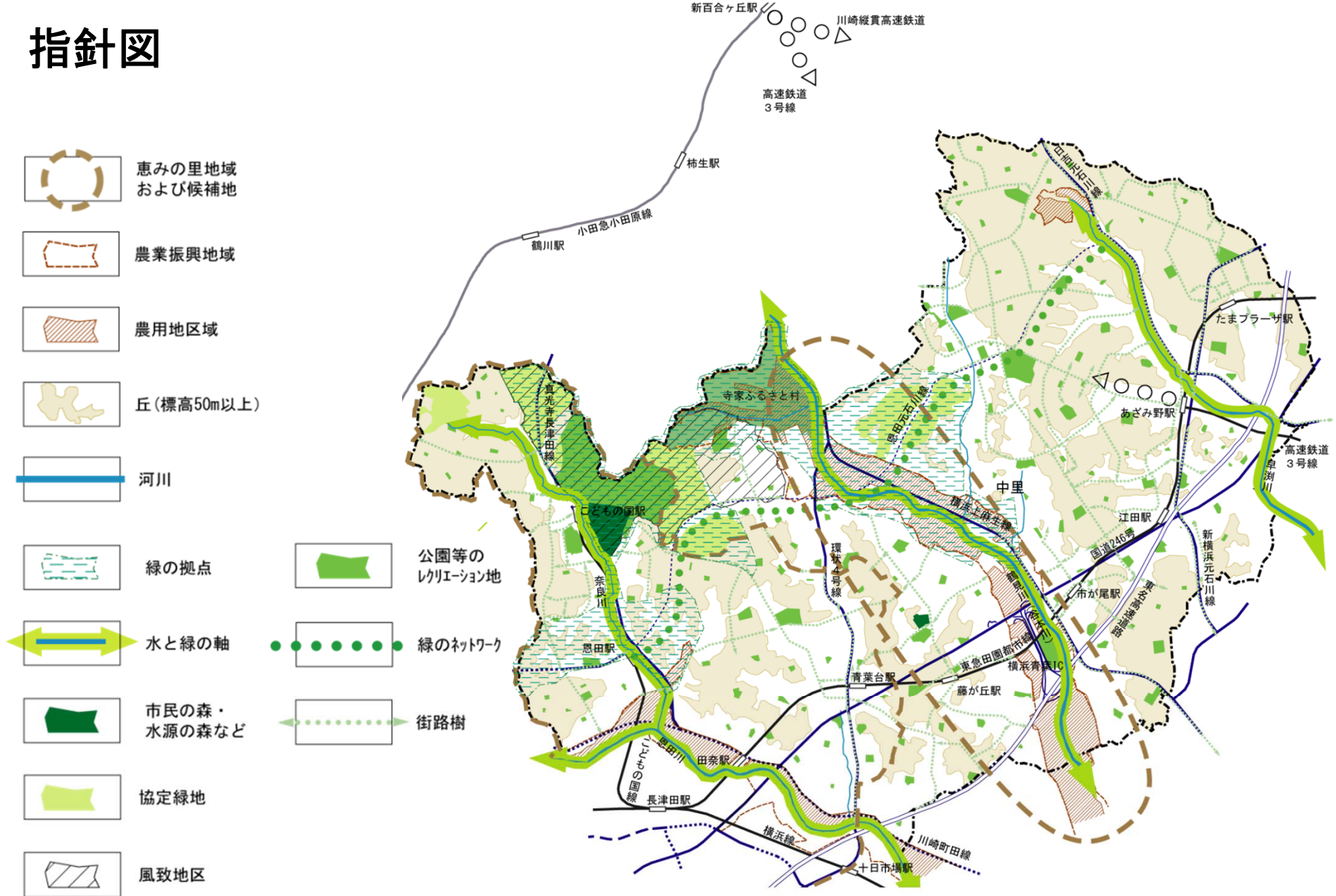
(6) 水循環の再生

水源の森

(7) 市民活動のネットワークづくり

テーマ別まちづくり指針3 水と緑の環境づくり p33

指針図



■ テーマ別まちづくり指針4 暮らしを支えるまちづくり

(1) 安全、安心なまちづくり

避難路・輸送路・延焼防止帯としての道路骨格形成、沿道建物の不燃化、橋や鉄道の耐震性向上、オープンスペース確保、公民の建物の耐震化・不燃化、総合治水対策、崖の崩落防止、集中豪雨への対策、地域の防災まちづくり、地域の防犯まちづくり

(2) 身近な施設づくり

北部方面フォーラム、コミュニティハウス整備、地域ケアプラザ・地域ケアセンター整備、保育所整備、きめ細かな医療サービス、北部市民ギャラリー整備、くろがね野活センター整備、谷本公園整備、活動を支えるしくみづくり

(3) 環境と共生するまちづくり

自家用車利用抑制、低公害車の普及促進、効率的な交通体系の確立、省負荷型建物、廃棄物の減量化・資源化、公共施設でのエネルギーの有効利用

(4) 地域情報化の推進

広報・広聴、教育、防災等への情報技術の活用、情報ネットワーク構築

■テーマごとに定める「景観づくりの指針」

1 拠点及び住宅地づくり

- ①拠点の景観づくり: 既存手法による個性豊かな街並づくり
- ②住宅地の景観づくり: 地域のルールづくり
- ③市街地の緑の景観づくり: 商店街による花作り、街路樹、緑地協定
- ④きれいなまちづくり: 放置自転車・不法投棄対策

2 交通ネットワークづくり

- ⑤道路空間の景観づくり: 街路樹、街路灯、舗装、沿道建物のルール
- ⑥鉄道や橋梁の景観づくり: 鉄道や橋梁の景観配慮

3 水と緑の環境づくり

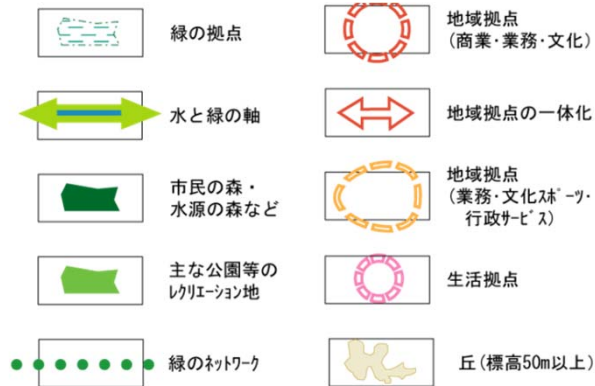
- ⑦水辺を活かした景観づくり: 多自然型川づくり、親水護岸、散策路、サイン
- ⑧眺望を考慮した景観づくり: 農地・樹林地・斜面緑地等の保全
- ⑨歴史と文化を伝える景観づくり: 田園風景の保全、文化財・史跡の保全

4 暮らしを支えるまちづくり

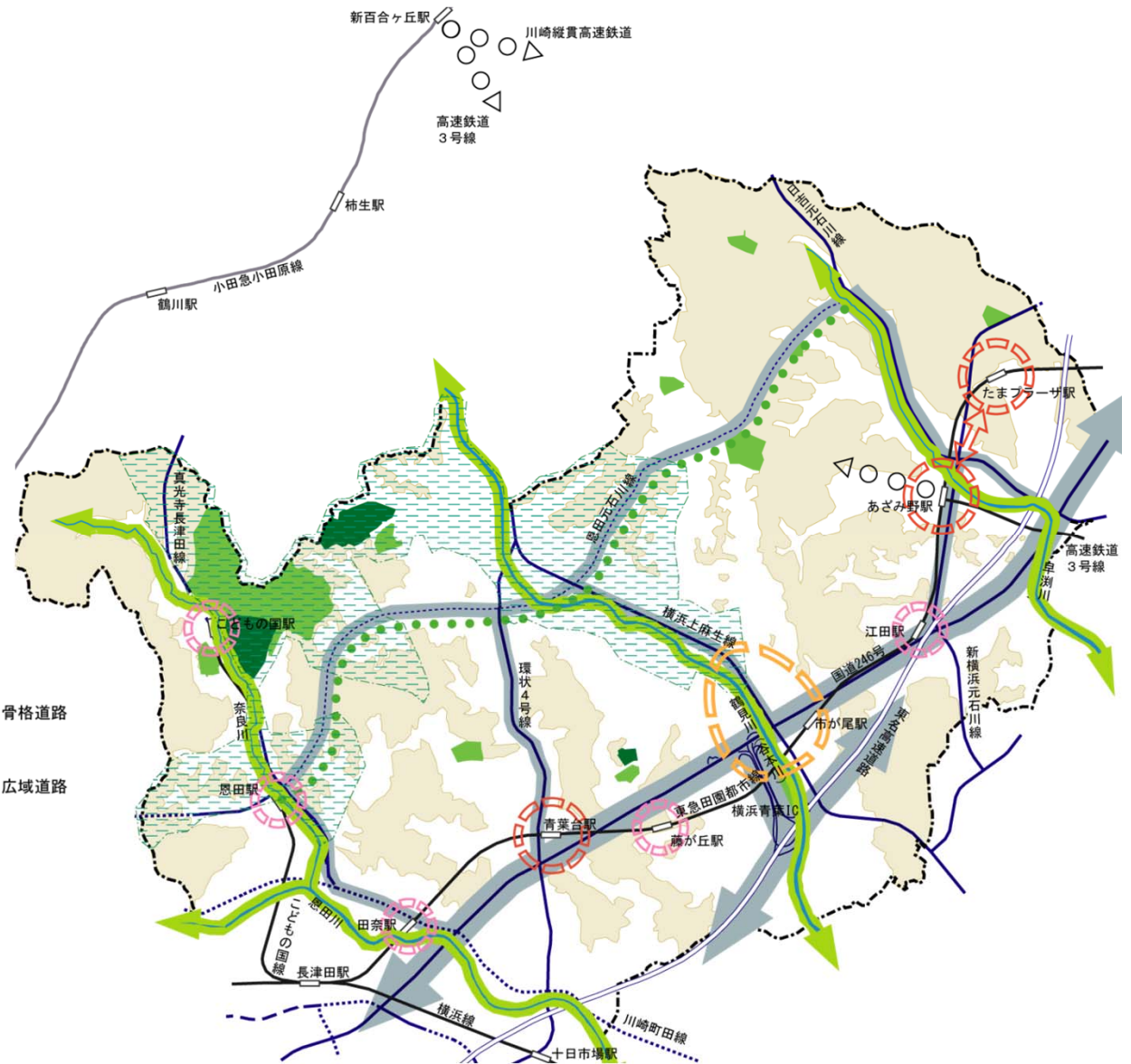
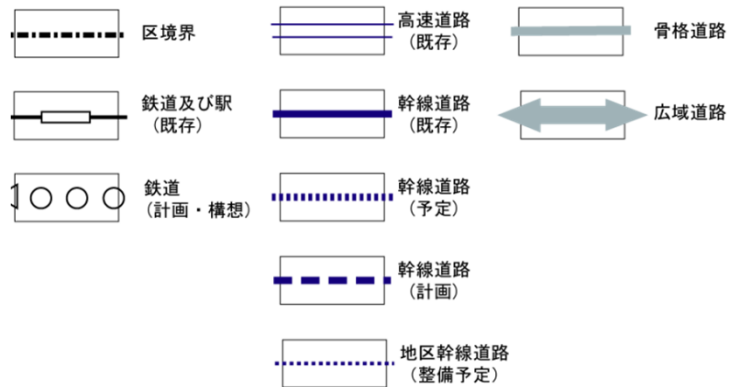
- ⑩公共施設による景観づくり: シンボリックで親しみあるデザイン

■ 将来構造図 (p12)

・水と緑の骨格


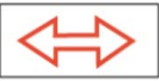




・交通ネットワーク




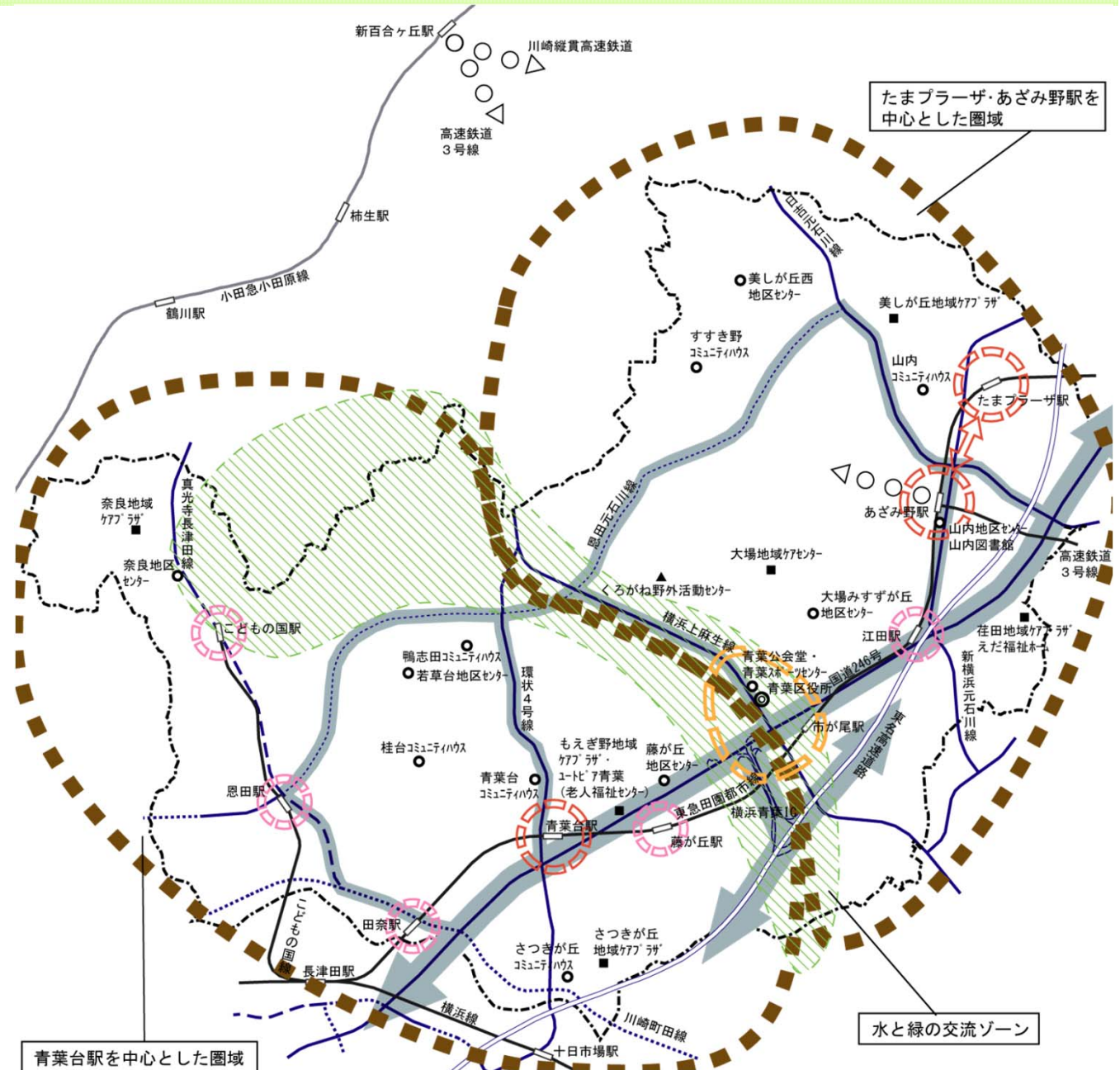
■ 将来構造図(まちづくりの圏域とゾーン) (p13)

・都市活動の拠点

-  地域拠点
(商業・業務・文化)
-  地域拠点の一体化
-  地域拠点
(業務・文化施設・行政サービス)
-  生活拠点




・まちづくりの圏域とゾーン

-  まちづくりの圏域
-  水と緑の交流ゾーン





■ 土地利用指針図 (p15)




・住宅系土地利用

-  低層住宅を中心とする地域
-  中高層集合住宅を中心とする地域
-  住宅と店舗・事務所が共存する地域

・商業・業務系土地利用

-  商業・業務機能を中心とする地域
-  大規模公共公益施設・大学等

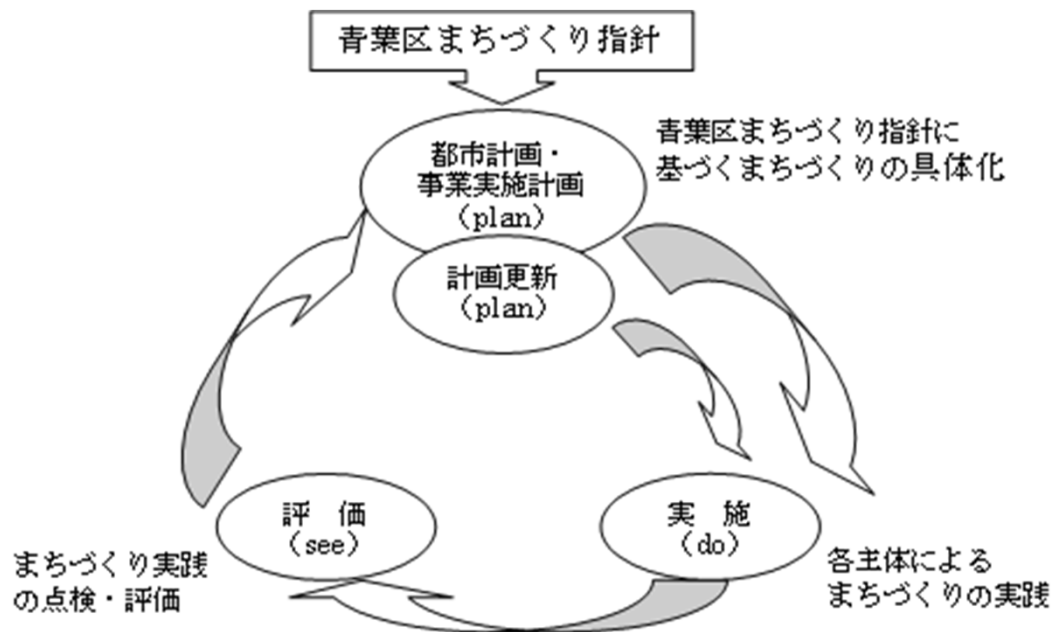
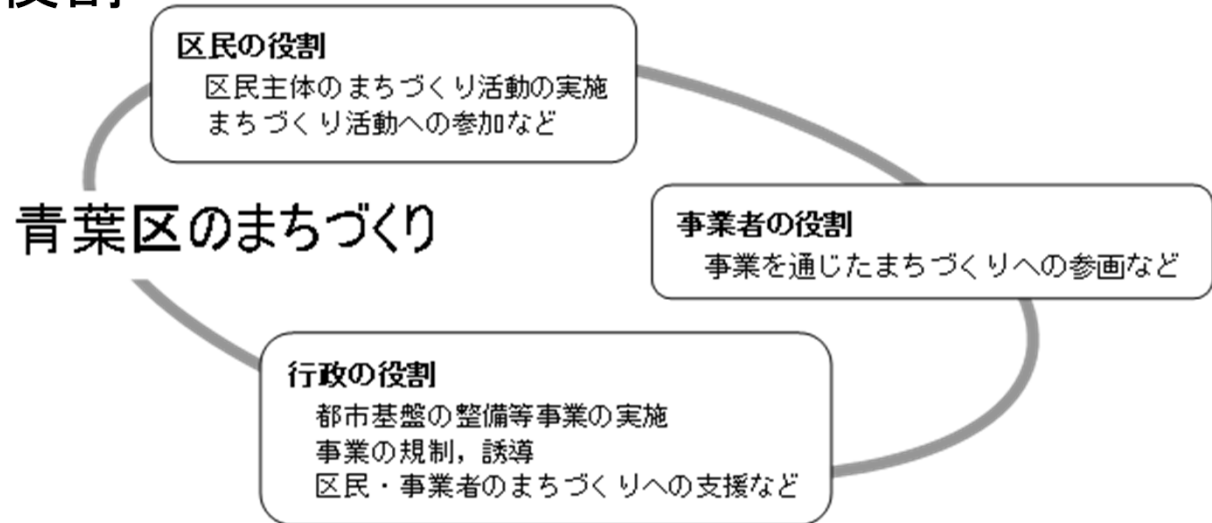
・自然的土地利用

-  自然的土地利用を中心とする地域
-  市民の森・水源の森など
-  公園等のレクリエーション地



■ 実現に向けて

1 まちづくりの主体と役割



2 推進に際しての 課題と考え方